

NEWSLETTER

THE ACADEMY OF CLINICAL DENTISTRY

2013. 9. 20

特定非営利活動法人 日本顎咬合学会

平成 25 年度 新体制スタート

007 新役員名簿
008 新常任理事コメント



新役員辞令交付式 (7月30日)

002 2013-14年度 理事長挨拶

新・顎咬合学 一口腔単位から一全身単位へ
渡辺 隆史

004 2013年度事業計画

特定非営利活動法人 日本顎咬合学会の使命と方針

009 学会活動報告

010 第14回咬合フォーラム (10月20日 朱鷺メッセ マリンホール・新潟市)

学術委員長挨拶

倉富 寛



生きて行く中での咀嚼

山田 好秋 新潟大学理事・副学長



咬合という全身 ～病態の連鎖・治癒の連鎖～

筒井 照子 福岡県開業・昭和大学歯学部兼任講師



では、実際に咬合をどうするのか

小出 馨 日本歯科大学新潟生命歯学部歯科補綴学第1講座主任教授

012 海外研修

中華民国顎咬合学会講演によせて

中山 隆司

014 Informations

特定非営利活動法人 日本顎咬合学会 ニュースレター No.72



特定非営利活動法人 日本顎咬合学会

〒102-0093 東京都千代田区平河町 1-8-2 山京半蔵門バレス 201
TEL: 03-6683-2069 FAX: 03-6691-0261

72

新・顎咬合学 一口腔単位から一全身単位へ

特定非営利活動法人 日本顎咬合学会 理事長 渡辺 隆史

前年度に引き続き、理事長を拝命した渡辺隆史です。会員の先生方におかれましては、日頃会務にご協力いただき誠にありがとうございます。定款変更により2年の任期を務めさせていただきます。微力ではありますが、全力投球で学会運営にあたる所存ですので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

1982年に設立された日本顎咬合学会は当初652名の会員から始まり、2013年7月現在、会員8530名にまで発展しました。これもひとえに歯科臨床にかける会員の皆様の熱い気持ちの結果です。日本顎咬合学会は、臨床医が作る臨床医のための学会として発展してきました。現代歯科医学は様々な分野で劇的な進化を遂げています。インプラント治療の確立・接着技術の向上・再生医療・CBCT・CAD/CAM などなど枚挙にいとまがありません。しかしながらそれらの革新的な技術も、それを臨床医が的確に具現化できなければ、机上の空論に終わってしまいます。日本顎咬合学会の大きな役割の一つは、臨床力を高めて患者利益につながる良質な歯科臨床を提供することにあります。我々は研鑽を続けながら、何が患者利益で何が不利益なのかを明確にしていかなければなりません。どんなに組織が大きくなっても、患者目線で歯科臨床を追求する姿勢を、ぶれずに貫いていくことが最も重要であると考えています。

学術大会に初めて参加された方からは「日本顎咬合学会という名からは想像ができない、多彩な演題に驚いた」というご意見をいただくことがよくあります。また、「学術大会プログラムや学会誌の内容が多岐にわたっていて混乱する」といった意見も寄せられます。しかしながら、咬合は全ての分野と何らかの関わりを持っていることを考えると、一口腔単位で治療を行う上で、咬合だけでなく全ての分野をバランスよく学ぶ必要があることも事実です。我々はそういった視点で咬合を捉えて学会運営にあたっています。

また、2012年に設立30周年の節目を終え、5年間の学会中期テーマを「新・顎咬合学」としましたが、当初何が「新」か、との問いに答えられずにいました。しかしながらこの度、小学館より「噛み合わせが人生を変える」という新書を発刊し、国民に向けて「新・顎咬合学」の一つの答えを発信することができました。咬合すなわち咀嚼が全身の健康に影響を与えることを明らかにしていく第一歩を踏み出したわけです。我々はこの新書を通じてさらに啓発活動を強化していきます。よって、今年の学会テーマを「新・顎咬合学一口腔単位から一全身単位へ」とさせていただきます。

日本顎咬合学会のもう一つの大きな役割が、若手臨床医の育成です。私自身が日本顎咬合学会にはじめて参加したとき、同世代の先生のレベルの高さに驚き、触発されました。



それが研鑽を続ける原動力となり、今の自分があると思っています。独学で勉強を続けることは本当に難しいと思います。仲間がいて、刺激になる素晴らしい発表が間近にあるからこそ続くのだと思います。継続して研鑽することが臨床力を上げ続ける唯一の方法だと思います。そういった意味では日本顎咬合学会は巨大なスタディーグループと言えるのかもしれませんが、その礎を作った保母須弥也先生とその一門が築いた業績に感謝して、それを伝統と呼び後世に伝えることが現執行部の役割の一つと心得ています。

若手育成のためには、支部活動の活性化も欠かせません。日本全国津々浦々まで、日本顎咬合学会の活動理念を伝えて、優秀な若手臨床医を発掘して全国区にまで押し上げることが、患者利益に通じる臨床を広めることになると思っています。会員の先生方におかれましては、身近にいる若手歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士の先生方に入会を勧めてください。きっと若手が発するエネルギーが、ベテランの先生たちの新たな原動力にもなることでしょう。

歯科臨床は本当に素晴らしい！ 医療人の一員として、日本顎咬合学会に関わる全ての方が、力を結集して、我々の仕事に対して誇りをもって語れるような学会に高めていきましょう。皆様のさらなるご協力をお願い申し上げます。

特定非営利活動法人 日本顎咬合学会の使命と方針

◆ 使命 (ミッション)

日本顎咬合学会は、国民の健口長寿と歯科医療の進歩と発展に貢献します

◆ 方針 (ビジョン)

日本顎咬合学会はリーダーシップを発揮し、革新と創造への挑戦を迫り、理念を実現します

2013-14 年度事業基本方針

「新・顎咬合学 一口腔単位から一全身単位へ」

2012年に学会創立30周年の節目を迎え、それまでの学会活動の総括を行いました。そして、前年度の2012-13年度事業基本方針を、新たな旅立ち飛躍への第一歩と位置づけ「新・顎咬合学—その魅力と可能性—」を事業テーマとし、これを5年間の中期テーマとして各事業を組み立てていくことにしました。本年度はその2年目となり、新・顎咬合学とは何か？ 一口腔単位から一全身単位へ視野を広げて考えていきたいと思えます。

2013-14 年度理事会運営方針

横の連携と公平性

本学会の理事者は、全員がボランティア精神のもと、日本の歯科臨床を発展させることを大義として忙しい時間を割いて運営に携わっています。その思いと時間を無駄にせず、事業を円滑になおかつ確実に実行していくためには、理事者全員の力が一つになることが最も重要であると思えます。そのためには委員会相互の横の連携を強化して、理事会が一体となって各事業を遂行していく必要があります。そこで、役員改選にあたる今年度は委員会を再編し、役員ディビジョンツリーを作成して理事会運営の効率化を図りました。情報の共有化を促進し、忌憚のない建設的な意見を出し合うことができるような理事会運営に務めます。

主な事業基本計画と目標

1. 会員数の増強

- 1) 都市部以外の会員数を増強し、地域格差を是正する。
- 2) 若い世代の会員数を増やす（臨床研修医から始まる若い世代の歯科医師に歯科臨床の魅力を伝える）。
- 3) 歯科技工士会員・歯科衛生士会員を増やし、三位一体の学会運営を強化する。

2. 患者利益の追求

我々臨床医の目的は、患者のお口の健康を生涯守り通すことにあります。

我々は、患者サイドに立った視点から臨床をとらえ、その科学的な根拠（EBM）を示しながら、患者利益を追求した臨床を展開していかなくてはなりません。

そのために何が必要か？そこに日本顎咬合学会の果たす役割の根源があると考えています。

3. 伝統の継承

日本顎咬合学会は、保母須弥也先生を中心として、咬合学を基盤とした歯科臨床を追求することで現在の学会を作り上げてきました。次世代といわれる我々理事者の役割は、その伝統を若い世代に継承することにあると考えています。

4. 中期学会テーマ「新・顎咬合学」の推進

- 1)新・顎咬合学推進委員会の設立
 - 2)小学館新書の活用
 - 3)学術大会のテーマに取り上げる
 - 4)HPへのテーマアップ
 - 5)学会誌のテーマに取り上げる
 - 6)公開フォーラム
 - 7)支部会でのテーマに取り上げる
- etc

5. 学会の三大柱(学術大会・学会誌・指導医認定医制度)

- 1)学術大会基本方針
 - ・中期(5年)のカテゴリー別到達目標の継続
 - ・中期テーマ「新・顎咬合学」の継続(5年)
 - ・咬合をテーマにしたシンポジウムの継続
 - ・低浸襲治療を念頭にしたテーマを継続して取り上げる
 - ・次世代を担う臨床医の育成継続
(若手歯科医師を対象にしたベーシックテーマと登竜門となるセッション)
 - ・最新のトピックスを取り上げる
 - ・三位一体(歯科医師・歯科技工士・歯科衛生士)の学術大会の継続
 - ・開業医として必要な情報の提供
 - ・公開フォーラムの継続
- 2)学会誌基本方針
 - ・臨床研究を推進し、読者目線に立った学会誌とする
 - ・三位一体の学会誌とする
 - ・若手臨床家を育成する学会誌とする
 - ・原著論文数5編の確保
 - ・査読の充実
- 3)指導資格・認定資格制度の基本方針
 - ・指導医、認定医の質の向上
 - ・歯科技工士・歯科衛生士認定医制度を軌道に乗せる
 - ・歯科医師指導医・認定医制度の厳格化
 - ・指導医の活躍の場を提供
 - ・指導医研修会の充実

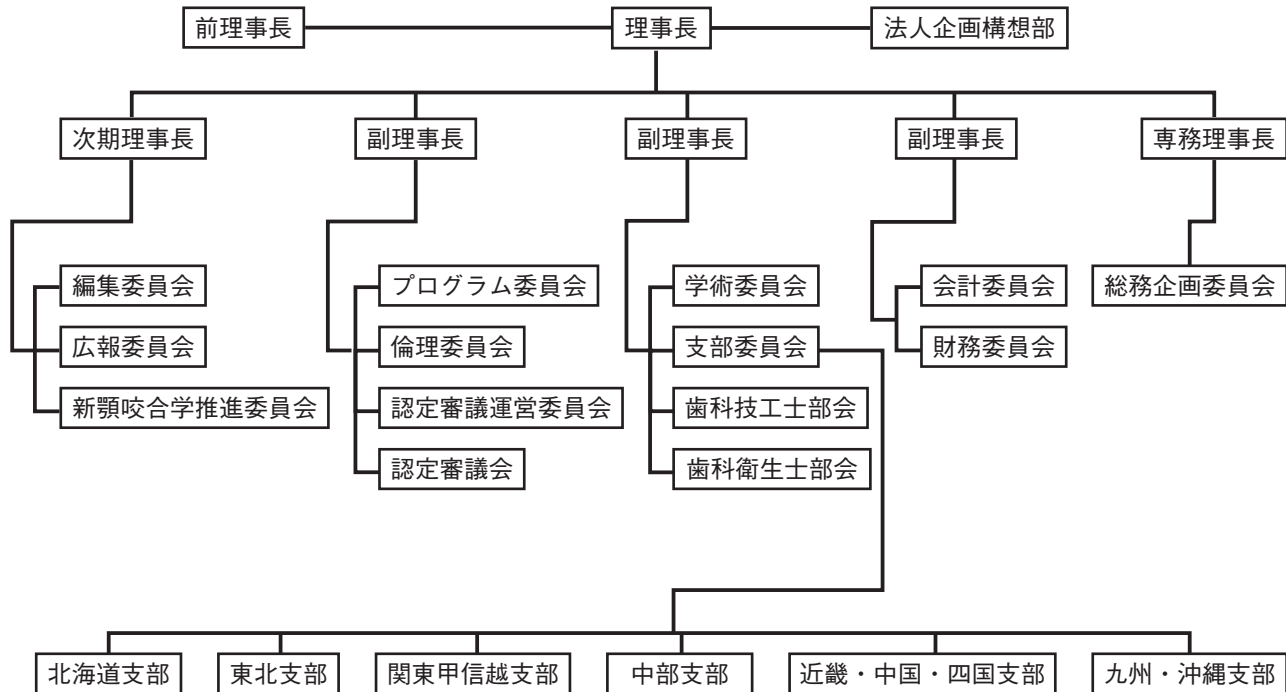
6. 理事会運営

- 1) 2013 年～ 2014 年度マニフェストの作成
- 2) 情報のガラス張り化(議事録管理システムの活用)
- 3) 役員ディビジョンツリーを活用した各委員会の横のつながりの強化へ
- 4) 各委員会の運営マニュアル作成
- 5) 支部委員会の活動強化
- 6) 広報活動の強化
- 7) 予算の見直し(無駄を徹底的に省き, 必要な事業に集中的に投資する)
- etc

7. 事務局運営

- 1) 事務局運営に関するマニュアル作り
- 2) 労務管理の整備

日本顎咬合学会 役員ディビジョンツリー



※詳細なディビジョンツリーは学会ホームページに掲載を予定しております。

メールアドレスご登録のお願い

現在、メールアドレスをご登録いただいている会員のみなさまにメールマガジンの配信を行っております。学術大会、咬合フォーラムについてなど、学会の最新情報をいち早く会員のみなさまにお届けしています。

メールマガジンの配信は学会ホームページの会員専用ページよりご登録いただけます。ログイン後、「登録内容確認・変更」にてメールアドレスをご入力の上、メールマガジン配信欄の「可」にチェックをお入れください。「この内容で登録する」にてご登録を完了いたしますと次回メールマガジンより配信をさせていただきます。一度会員専用ページでご確認ください。ご登録をお待ちしております。



特定非営利活動法人 日本顎咬合学会

平成 25 年度 新体制スタート

6月30日(日)第31回学術大会後開催された総会において、渡辺隆史理事長の2期目の就任が承認され新年度の活動が始まりました。

それを受け、7月30日(火)に、新体制人事の発表と新役員辞令交付式が行われました。

7月31日(水)には、新年度第一回常任理事会、それに引き続き、賛助会員企業との懇談会、懇親会が開催され、第31回学術大会に賛助いただいた企業から、66社のご参加をいただき、今大会を振り返っての反省点、また、次回大会成功へ向けての建設的なご意見を頂き、更に懇親会でも、活発な交流が行われ、非常に貴重な時間となりました

平成 25 年度 日本顎咬合学会役員名簿

理事長	(1名)	渡辺 隆史			
次期理事長	(1名)	上演 正			
前理事長	(1名)	南 清和			
副理事長	(3名)	加々美 恵一	上田 秀朗	亀田 行雄	
専務理事	(1名)	金沢 紘史			
常任理事	(16名)	山地 良子	平井 順	脇本 貢	黒岩 昭弘
		岸本 英之	俵木 勉	松崎 浩成	貞光 謙一郎
		田ヶ原 昭弘	久保田 智也	桑田 正博	田中 晃伸
		村上 恵子	倉富 覚	大石 暢彦	岩崎 貢士
理事	(23名)	赤田 尚久	石上 和紀	石田 博也	石原 研
		鷓飼 誠	小原 俊彦	勝部 義明	木村 純子
		小林 明子	小林 隆	榊原 功二	菅野 詩子
		田中 憲一	登内 敏夫	中島 稔博	中山 直樹
		挽地 俊哉	増田 純一	松島 正和	松本 勝利
		三輪 一雄	山崎 一人	山中 一剛	
幹事	(4名)	河津 寛	上野 道生	小林 和一	夏見 良宏
顧問	(6名)	矢澤 一浩	菅野 博康	河原 英雄	富野 晃
		岩田 健男	鈴木 尚		



常任理事会



賛助会員企業懇談会


 新常任理事コメント
 

新役員辞令交付式(7月30日)にご出席いただいた新常任理事の先生方よりコメントをいただきました。



大石 暢彦
(神奈川県開業)

今、AKB48 というものが流行っておりますが、日本顎咬合学会ではキーワードが「顎」ですので、私は(今年48歳なので) AGO48 でセンターは狙わず、サイドバックぐらいでいこうかなと思っております。

大石内蔵助とはあまり縁がないようで、どちらかといいますと昼行灯で世間知らずなところが多々あるとは思いますが、諸先輩方にご指導いただきながら精一杯がんばりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。



村上 恵子
(歯科衛生士)

このたび約430名の認定歯科衛生士が誕生しまして、認定歯科衛生士の方々に「日本顎咬合学会で勉強ができます」とお声がけをさせていただきました。その責任を果たすつもりで、今回歯科衛生支部会委員長の大役を受けさせていただきました。右も左もわからない一歯科衛生士ですので、先生方のお力添え、またご意見いただくこととなりますが、がんばっていきたく思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。



倉富 覚
(福岡県開業)

私は前学術委員長の上田先生のところで、学術委員をさせていただいたのですが、非常に口べたでなかなか人前で話すことが苦手なのですけれども、九州出身の河原先生、山地先生と先輩方が日顎のためにご尽力されてこられました。私も九州出身なので、その栄光を引き継ぎ、また汚さないように、微力ながらも日顎のために尽くしてゆきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。



岩崎 貢士
(埼玉県開業)

私は卒業して4年目より、縁あって立ち上げから7年間ハビリテーション病院で勤めさせていただきました。ほとんどの患者さんが要介護高齢者の方で、いろいろな経験をさせていただきました。その中で千人以上の脳卒中患者を診てきて、「口の中が整うととにかく元気になる」ということを、身をもって経験してまいりました。今回、上演先生よりお話があり、新顎咬合学推進委員会筆頭副委員長という大役をいただくこととなりましたのも、私の経験を役立てるようにとのことと思っております。元気な高齢者がたくさん増えるように、またそれをしっかりと意図し、微力ながら務めさせていただきたいと思っております。しっかりとやらせていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。



田中 晃伸
(茨城県開業)

障害者歯科のできた教室に在籍し、小児歯科畑をずっと歩いてきましたので、正直言いますと、補綴につきまちは一生懸命勉強している最中です。地方の歯科衛生士の教育を任されまして、何とか軌道に乗せることができ、そろそろ地方での歯科衛生士教育も卒業させていただこうと考えていました。ちょうど孫が生まれましたし、妻と二人で孫との生活をゆっくりおくらうかと思っておりましたが、渡辺先生より「先生の力(パワー)を貸してください」とのご連絡をいただきましたので、また気持ちを新たに一兵卒としてご協力させていただきたいと思っております。先生方におかれましてはご指導、また遠慮なくご叱責いただければ非常にありがたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

学会活動報告

日本顎咬合学会編集「噛み合わせが人生を変える」が発刊されました。

夕刊フジ 2013.8.12 朝刊 ちょっと医い話＝健康長寿の実践法に掲載！
全国有名書店、インターネットで発売中
会員に限り、10部以上のご購入で定価の2割引(576円+税)で販売いたします。

日本顎咬合学会ホームページより発注書がダウンロードできます。
http://www.ago.ac/menu/order_bk2.pdf

割引購入期限 **2013年10月末日**



トヨタ自動車株式会社講演会

6月10日(月)トヨタ自動車株式会社本社ビル会議室において、当学会顧問河原英雄先生の講演が行われました。
この企画は、社員の健康づくり活動の一環として、噛んで食べることが全身の健康づくりに大きく関与していることを知っていただくという主旨から、トヨタ自動車株式会社からの要請により実現いたしました。

『噛むことは生きること』の演題で、午後1時30分より1時間の予定で行われました。昼食後の睡魔が襲う時間であるにもかかわらず、約100名の参加者の真剣なまなざしは途切れることなく、講演内容の素晴らしさ、人を引きつけてやまない河原先生の魅力を再確認しました。

噛むことで失われていた機能が回復する実例を、トヨタの“Reborn”になぞられて表現された時には、より大きな反響があり、盛況のうちに終演となりました。

キュービー株式会社での活動、今回のトヨタ自動車株式会社での活動、そして学会よりの新書発刊と、噛むことと全身の機能ががいかに深くかかわっているかを世間一般が感じはじめた今、これを専門家の立場から、国民に発信、解説できる唯一の学会、それが日本顎咬合学会です。



今後の予定

ライオン株式会社講演会

日時：9月17日(火) 14:30～17:00

場所：ライオン(株)平井事業所
(東京都江戸川区平井7-2-1)

矢崎総業講演会

日時：10月8日(火) 14:00～16:00

会場：Y-CITY 第一ホール
(静岡県裾野市御宿1500番地)

訃報

第26回日本顎咬合学会学術大会において、特別講演を行っていただきました Vincent Kokich 先生が、7月23日心不全のためご逝去されました。

先生は、生前アメリカ矯正学会誌の編集長を務めておられ、また、5月のアメリカ矯正学会でもお元気な姿で講演をされていたと伺っておりました。

Kokich 先生のご冥福を祈り、謹んでお知らせいたします。



第14回咬合フォーラム 咬合・咀嚼と全身の関わりを紐解く



座長：細山 愷先生(新潟県燕市開業)

1961年 東京歯科大学卒業
東京歯科大学病院臨床検査室入室

新潟県燕市 細山歯科医院開設

2013年10月20日(日)

2013年10月20日(日) 10:15～16:30

朱鷺メッセ マリンホール

新潟県新潟市中央区万代島6-1 TEL.025-246-8400

学術委員長挨拶



●倉富 覚先生 略歴

1996年 九州大学歯学部卒
1996年 北九州市門司区山内歯科
医院勤務
1998年 北九州市小倉北区下川歯科
医院勤務
2001年 北九州市小倉南区川崎歯科
医院勤務
2003年 福岡県北九州市小倉南区
沼緑町にて開業

倉富 覚 委員長

咬合フォーラムも今回で14回目を迎えました。この咬合フォーラムは学術大会と並び、日本顎咬合学会の根幹をなす学術事業です。幅広い分野にわたる講演が魅力のひとつでもある学術大会と比較して、咬合フォーラムは「咬合」に焦点を当てた、いわば日本顎咬合学会の原点ともいえるのではないのでしょうか。今回は場所を新潟県に移し、「咬合・咀嚼と全身の関わりを紐解く」というテーマで開催させていただくことになりました。このテーマこそ渡辺隆史理事長が提唱されている「新・顎咬合学」を追求し、国民のお口の健康だけでなく、全身の健康に貢献しうる歯科医師となるために、必ず押さえておかななくてはならない非常に重要なポイントだと思います。今回は山田好秋先生(新潟大学副学長)、筒井照子先生(日本包括歯科臨床学会顧問)、小出馨先生(日本歯科大学新潟生命歯学部教授)の3名の著名な咬合の大家にご登壇いただく予定になっています。また、細山愷先生(新潟県開業)に座長をお願いし、3名の先生方の講演を紐解くナビゲーターとなっていただけることも非常に楽しみです。近年、歯科と全身の関わりがクローズアップされ、我々歯科界に対する国民の期待も高くなっているように感じられます。その期待に応えるためのヒントが、今回の咬合フォーラムには満載で、必ず先生方の臨床のお役に立てるものと信じます。是非、皆様ご参加くださいますよう、お願い申し上げます。最後に今回の開催にあたり、ご尽力いただきました登内敏夫先生はじめ新潟県会員の先生方に厚く御礼申し上げます。

プログラム

10:20～11:50



●山田 好秋先生 略歴

1974年 新潟大学歯学部卒業
1978年 新潟大学大学院歯学研究
科(口腔生理学専攻)
1981年 長崎大学歯学部 助教授
1993年 新潟大学教授
2012年 新潟大学理事・副学長

生きて行く中での咀嚼 山田 好秋 先生

咀嚼に代表される口腔機能は手の運動や歩行と比べると重篤な運動障害は起こりにくく、加齢の影響も軽微です。これは野生動物の場合、口から栄養摂取できなくなると死に至ることから容易に理解できるように、咀嚼が営む栄養摂取機能が生命維持に重要な機能であり、生体には咀嚼機能への影響を軽減する機構が備わっているからです。

私たちは空腹感を覚えると食物を探し、食べられそうであればこれを口に運びます。口に取り込んだ食物は、液体であればそのまま嚥下され、プリンのような軟らかな食物は舌と口蓋で押しつぶしてから嚥下されます。一般的な食物は舌で臼歯部に運ばれ、ここで咀嚼・粉碎され、唾液と混ぜられやがて嚥下されます。

日常、何気なく行われるこれらの運動は、口腔に備わった感覚器、舌や顎骨などの特殊な運動器、そして両者を制御する脳機能が連携して可能となります。そして何よりも重要なことは、これらの運動を通して、脳は食の安全を確認しているのです。その点においては、私たちの日常生活で重要な視覚が口腔内では使えません。すなわち、視覚情報が使えない代わりに口腔には全身のどこよりも鋭敏な感覚器、さらには味覚のような特殊な感覚も配置され、これらを通して脳は咀嚼の状況をリアルタイムに知ることができるのです。

今回、咀嚼運動をレントゲンビデオで紹介し、咀嚼運動を脳機能の面から解説してみます。

11:50～12:50 休憩

12:50 ~ 14:20



●筒井 照子 先生 略歴

1996年 九州歯科大学卒業
1970年 九州歯科大学矯正学教室
在籍
1975年 北九州八幡西区にて開業
1980年 昭和大学歯学部兼任講師

咬合という全身～病態の連鎖・治癒の連鎖～ 筒井 照子 先生

40年を越えて歯科臨床を行って来ましたが、その中で一番考えさせられること、それは「口腔、咬合がいかに全身の健康と密接につながっているか」ということです。

下顎は全身の中のバランスの役目をしています。下顎位を回復するだけで全身の健康を回復して行かれる方も数多く経験して来ましたが、歯科医として喜びですが、反対に知らない間に壊していることもあるのかもしれない。怖いのは「よくない咬合」から体の他の部位へ連鎖して疾病を発症することです。

「病態の連鎖」と呼んでいますが、咬合の難しいのは直接目で見えにくいことや、患者様の訴えられる重症度がそのまま検査値に表現されないことなどでしょう。最近は「歯科心身症」という病名が一人歩きしている感がありますが、安易に患者様のメンタルな方向に問題を持っていくことは医療人として最大気をつけなければいけないことだと思っています。

咬合のトラブルは目で見分かりやすいD.C.S.を含めて、大きく捉えると「顎口腔機能障害」です。多様な原因で多様な病態を示す「顎口腔機能障害」について「機能の見える化」をしています。最大、訴えられる症状の病態を形態の異常につなげ、形態を元に戻す努力をすべきでしょう。

「病態の連鎖」が「治癒の連鎖」に切り替えられた時、生体は術者が手を出した以上の健康を取り出して行かれます。

咬合を科学として捉え、診査・診断から治療方針、方法、評価が連なる臨床を目指したいと考えています。

御理解いただければ幸いです。

14:30 ~ 16:00



●小出 馨 先生 略歴

1979年 日本歯科大学新潟歯学部
卒業
1983年 日本歯科大学大学院修了
1988年 トロント大学歯学部補綴
学教室客員教授(2006
年まで)
1998年 日本歯科大学新潟生命
学部歯科補綴学第1講
座主任教授
日本歯科大学大学院新潟
生命歯学研究科機能性咬
合治療学主任教授

では、実際に咬合をどうするか 小出 馨 先生

歯科医療の役割は、歯列をはじめとする顎口腔系の再建と保全による諸機能の維持です。維持する機能は、咀嚼、嚥下、呼吸、発音、口腔感覚、姿勢維持、身体運動能力、そして審美も含めたもので、これらはいずれも日々の生活の質を左右します。

また、特に“歯科だけが介入できる咬合治療”には顎関節との調和が極めて重要で、諸機能の回復率や力のコントロールに影響を及ぼし、顎口腔系のみならず全身の健康に大きく関与します。さらに咬合は、前頭前野をはじめとする脳機能の活性化、生きることへの意欲の回復、精神心理状態の改善にまで影響し、人生の満足度の観点からも極めて重大な役割を果たしています。

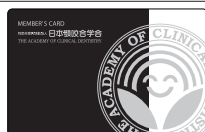
また近年、患者さんから顎関節と咬合の不調和に関連する様々な要求が大変多くなされるようになってきており、患者さんの歯科治療と咬合に対する認識が大きく変化してきていることを痛感させられます。歯科医師には、顎関節と咬合に関する診断と治療内容の更なる高度化が強く求められているのです。

『では、実際に咬合をどうするのか』となると、顎関節の診断や咬合に関わる多くの部分がいまだに曖昧で、明確な基準が示されていません。

今回の咬合フォーラムでは、この顎関節と咬合の診断基準を臨床に即して具体的に探求し、おおいに議論したいと思っております。先生方の明日からの臨床に生かしていただければ幸いです。どうぞ宜しくお願いいたします。

16:00 ~ 16:30

ディスカッション



会員カードを忘れずにお持ちください。

入場の際に出席を取らせていただきます。

※日本歯科医師会にご所属の先生は生涯研修登録ICカードをお持ちください。

海外研修

- 【研修先】 中華民国顎咬合学会(台湾)
【日程】 2013年11月9日(土)日台合同懇親会(18:00～開催予定)
2013年11月10日(日)中華民国顎咬合学会・学術大会参加(9:00～17:00)
【参加費】 20,000円(学術大会費, 懇親会費込)
※現地までの交通費, 宿泊費, 現地での交通費その他は別途

海外研修への参加申込は9月30日(月)までです。詳細はHPにてご確認ください。
ご参加お待ちしております。

http://www.ago.ac/menu/info_taiwan.html

中華民国顎咬合学会講演によせて

来る11月10日に中華民国顎咬合学会・学術大会が台湾の福華国際文教会館にて開催されます。皆様もご存知の通り、毎年日本顎咬合学会の学術大会において台湾の先生方が多数参加され、ご登壇頂いております。

今回はこちら側から台湾にお招き頂き、通訳なしの英語で発表する機会を頂きました。

前学術委員長の上田秀朗先生を中心に“上田 JAPAN “の一員として行って参ります。

このような機会を与えて頂いた日本顎咬合学会、中華民国顎咬合学会の皆様にご心より感謝しております。

私自身、大学受験英語は少し得意な方でしたが、月日は流れ、英語から久しく遠ざかっており、どうなることかと思いつつ楽しみにしております。今後、当学会としても会員の皆様が発表できるこのような機会が増えると聞いております。会員の皆様も日本国内にとどまらず、一歩踏み出し、まずはアジアからステップアップしてはいかがでしょうか？

11月は台湾で日本顎咬合学会会員の先生方と真面目に発表して、台湾の会員の先生方と交流する中で楽しい夜を過ごせることを今から楽しみにしております。

中山隆司(大阪府大阪市)

上田 秀朗 先生 < Keynote speaker >

包括歯科臨床の実際 - 審美的で機能的な咬合再構成を求めて -

Practicing comprehensive clinical dentistry

-Quest for the reconstruction of esthetic and occlusal function-

天川 由美子 先生

前歯部における接着修復について

Bonded restoration in the anterior dentition

金城 清一郎 先生

審美領域における低侵襲な歯槽堤増大とメンテナンス

Minimally invasive alveolar ridge augmentation and maintenance

in the esthetic zone

倉富 覚 先生

顎関節症患者に対して矯正治療で改善を図った一症例

A case that planned improvement by orthodontic treatment for a patient of

temporomandibular disorder.

俵木 勉 先生

CTを用いた下顎オトガイ孔部の骨断面形態および下顎管の走行形態の観察

Study of the cross sectional morphology of the mental foramen and

the anatomical presentation of the mandibular canal under CT imaging

中島 稔博 先生

Approach to the prosthetic treatment in the esthetic zone

中山 隆司 先生

上顎多数歯欠損インプラント補綴の治療計画 - 治癒を考慮して -

Treatment planning for implant prosthesis in a case with multiple tooth defects

in the maxilla: in consideration of healing

前田 武将 先生

咬合崩壊を治療した一症例 - 咬合接触状態から考察する -

A case of bite collapse treatment ~ Consideration of occlusion contact ~

松島 正和 先生

咬合と顎関節 - 補綴物長期安定の基礎知識 -

Occlusion and temporomandibular joint

- Basic knowledge of prosthetic long-term stability -

山下 恒彦 先生

Trend of esthetic ceramic & Implant restoration utilizing CAD/CAM system

Lectures

(五十音順)

Informations

第31回日本顎咬合学会学術大会・総会

第31回日本顎咬合学会学術大会・総会が6月29日(土)30日(日)、東京国際フォーラムにて開催されました。メインテーマを「新・顎咬合学」-その魅力と可能性-と題し、依頼講演、会員発表併せて354題の演題数、参加総数5,362名の中、盛会裏に終了することができました。

これもひとえに皆様方のご支援の賜物と感謝し、会員及び関係者各位にお礼申し上げます。

また来年の大会に向けてより良い大会を開催できるよう準備をして参りたいと存じますので引き続きご協力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

表彰者一覧

学会誌優秀論文賞	神田 省吾	歯科医師部門
	阿部 恵	歯科衛生士部門
	森永 純	歯科技工士部門
第30回学術大会優秀発表者(口演)	白石 康博	歯科医師
	佐藤 博宣	歯科医師
	赤松 由崇	歯科医師
	石黒 雄人	歯科医師
	日栄 綾乃	歯科衛生士
	松延 允資	歯科医師
	小川 早由美	歯科衛生士
	若井 友喜	歯科技工士
	黒木 道明	歯科医師
第30回学術大会優秀発表者(ポスター)	鄭 鴻麟	歯科医師
	藤岡 直也	歯科医師
	森川 秀典	歯科医師
	武田 尊浩	歯科医師
	溝渕 宏幸	歯科医師
若手歯科医師の登竜門支部選抜発表	清水 純恵	歯科衛生士
	小林 英史	歯科医師



第32回学術大会について

《テーマ》新・顎咬合学 ——口腔単位から一全身単位へ——

《開催日》2014年6月14日(土)15日(日)

《演題募集期間》2013年12月2日(月)～1月31日(木)

※第32回学術大会より演題募集期間が変更となります。

※抄録投稿の締切は2月28日(金)です。

詳細は、後日発行のパンフレットにてご確認ください。たくさんのご応募お待ちしております。

歯科技工士，歯科衛生士認定研修Ⅰを受講された皆様へ 今後のスケジュールのお知らせ

6月30日(日)に東京国際フォーラムのホールCで開催された認定研修Ⅰには多くの歯科技工士，歯科衛生士の皆様にご参加いただきました。

今後のスケジュールは下記のとおりです。認定研修Ⅰに出席されて認定歯科技工士・認定歯科衛生士を目指されている皆様は郵送される申込用紙にてお申込みください。

◆認定歯科技工士 検定試験のご案内

実施日程：2014年4月6日(日) 11:00～16:00

実施会場：JA 共済ビルカンファレンスホール(東京都千代田区平河町2-7-9)

※事前講義，認定試験

◆歯科衛生士 認定研修Ⅱ・Ⅲ，検定試験のご案内

2014年3月21日(金・祝)	福岡	福岡県歯科医師会館
3月23日(日)	大阪	梅田センタービル16階E会議室
4月6日(日)	仙台	宮城県歯科医師会館
4月13日(日)	名古屋	カポデンタルシステムズジャパン(株)名古屋営業所
4月20日(日)	東京	全社協・灘尾ホール(新霞ヶ関ビル)
4月27日(日)	札幌	札幌国際ビル8階B会議室

※スケジュール(各支部共通)

10:00～11:30 認定研修Ⅱ(歯科医師の先生による講義)

12:30～14:30 認定研修Ⅲ(歯科衛生士の先生による講義)

15:00～16:00 検定試験

※原則はご所属の支部に参加していただきますが，ご予定が合わない場合は他支部での参加も可能です。

◆合格発表 第32回日本顎咬合学会学術大会・総会(2014年6月14日，15日)

※2014年度認定医検定試験について

2014年度認定医検定試験は下記の要領で開催する予定です。入会后2～5年の歯科医師の皆様には12月頃に案内を郵送いたします。併せて12月頃にホームページ上でもご案内いたしますので，その他の先生で受験を希望される場合はそちらをご覧ください。

実施日時：2014年5月25日(日) 10:50～17:00

実施会場：JA 共済ビルカンファレンスホール

平成25年度 認定医・認定歯科技工士・認定歯科衛生士検定試験結果報告

今年度の認定医検定試験は5月12日(日)，認定歯科技工士検定試験は4月7日(日)にJA 共済ビルカンファレンスホール(東京)で実施されました。また，認定歯科衛生士検定試験は1月～4月に6支部の各会場にて実施されました。

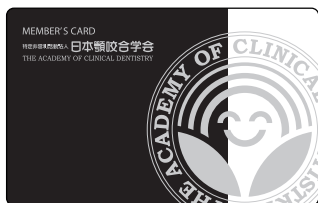
その後，6月6日(木)の認定審議会・認定審議運営委員会の合同委員会において厳正な採点が行われ，その結果は6月28日(金)開催の理事会で審議され，新たに認定医130名，認定歯科技工士215名，認定歯科衛生士433名が承認されました。認定された皆様方の検討を講るとともに，今後のご活躍を期待しております。

(認定審議会委員長 平井 順)

【認定医検定試験】 受験者179名・合格者130名

【認定歯科技工士検定試験】 受験者272名・合格者215名(100点満点56名)

【認定歯科衛生士検定試験】 受験者435名・合格者433名(100点満点170名)



● 会員カード発行のお知らせ

平成24年度より会員カードを発行しております。学術大会・咬合フォーラム・研修会などの受付手続きや単位申請（申請方法は会によって異なります）に必要となりますので開催時には必ずご持参頂きますようお願いいたします。

学会ホームページの「WEB 会員システム」をご利用ください

- ・勤務先・自宅・お届け先などで登録内容の確認・変更
- ・認定資格・単位取得状況の確認
- ・年会費のお支払（カード決済）、お支払状況の確認
- ※コンビニ・郵便振替をご希望の方は事務局までご連絡ください

- ・平成25年度の年会費の納入がまだお済みでない方は、至急お振込みをお願いいたします。
- ・過去に未納分がございますと、認定試験、認定医の更新、学術大会への参加ができませんのでご注意ください。
- ・学会からの発送物は郵便及びメール便を利用しています。メール便の場合は転送されませんのでお届けできない場合がございます。勤務先の変更、転居等登録内容に変更が生じた場合は、至急変更のお手続きをお願いいたします。
- ・「WEB 会員システム」のご利用には、会員ID（会員No）とパスワードが必要です。ご不明な場合は事務局までお問い合わせください。

平成25年度 各支部の事業予定（自 平成25年4月1日～至 平成26年3月31日）

支部名	区分	開催日	会場	内容、講師等
北海道	認定医教育研修会	25年9月8日（日）	札幌国際ビル 国際ホール	テーマ：「生涯にわたる歯周病を基礎と臨床から考える」 伊藤 公一 先生（日本大学歯学部特任教授） 阿部 伸一 先生（東京歯科大学解剖学講座教授）
	支部学術大会	26年3月2日（日）	北海道大学学術交流会館	特別講演：三上 格 先生 会員発表
東北	認定医教育研修会	25年12月15日（日）	宮城県歯科医師会館	テーマ：「生涯にわたる歯周病を基礎と臨床から考える」 伊藤 公一 先生（日本大学歯学部特任教授） 阿部 伸一 先生（東京歯科大学解剖学講座教授）
	支部学術大会	25年11月23日（土）	宮城県歯科医師会館	基調講演：若林 健史 先生（東京都開業） 「チーム医療が患者を救う」 ～スタッフと連携で明るい歯科医院づくりをしよう～ 会員発表
関東 甲信越	認定医教育研修会	25年12月1日（日）	全国町村会館 ホール	テーマ：「生涯にわたる歯周病を基礎と臨床から考える」 伊藤 公一 先生（日本大学歯学部特任教授） 阿部 伸一 先生（東京歯科大学解剖学講座教授）
	支部学術大会	26年3月16日（日）	JA 共済ビル カンファレンスホール	基調講演及び会員発表3題予定
中部	認定医教育研修会	25年12月8日（日）	名古屋国際会議場	テーマ：「生涯にわたる歯周病を基礎と臨床から考える」 伊藤 公一 先生（日本大学歯学部特任教授） 阿部 伸一 先生（東京歯科大学解剖学講座教授）
	北陸地区主催 認定医教育研修会	26年2月23日（日）	ホテル金沢	講師：河原 英雄 先生（大分県開業）
	支部学術大会	25年12月1日（日）	名古屋国際会議場	基調講演：村岡 秀明 先生（千葉県開業） 「咬合と顎口腔系とのかわり」 会員発表
近畿 中国 四国	認定医教育研修会	26年1月19日（日）	千里ライフ サイエンスセンター	テーマ：「生涯にわたる歯周病を基礎と臨床から考える」 伊藤 公一 先生（日本大学歯学部特任教授） 阿部 伸一 先生（東京歯科大学解剖学講座教授）
	支部学術大会	25年10月13日（日）	千里ライフ サイエンスセンター	基調講演：夏堀 礼二 先生（青森県開業） 演題未定 会員発表：未定（4～5題を募集の予定）
九州 沖縄	認定医教育研修会	25年10月27日（日）	JR 博多シティ会議室	テーマ：「生涯にわたる歯周病を基礎と臨床から考える」 伊藤 公一 先生（日本大学歯学部特任教授） 阿部 伸一 先生（東京歯科大学解剖学講座教授）
	沖縄支部主催 認定医教育研修会	未定	沖縄県	未定
	支部学術大会	26年2月23日（日）	アクロス福岡	未定